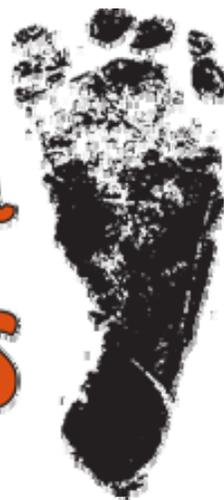


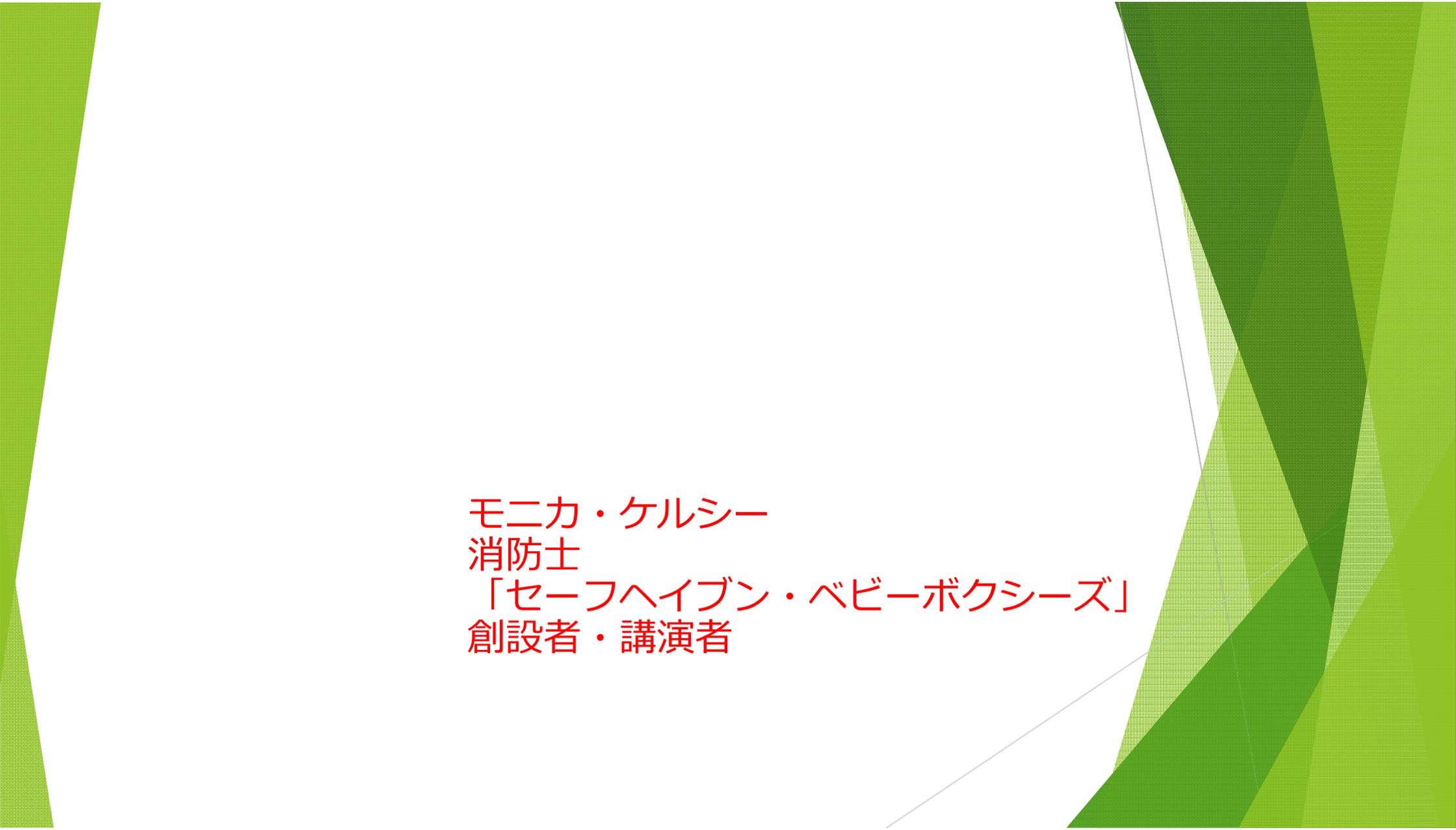
Safe Haven Baby Boxes



Until Abandonments No Longer
Happen

アメリカ合衆国

発表：モニカ・ケルシー、創設者



モニカ・ケルシー
消防士
「セーフハイブン・ベビーボクシーズ」
創設者・講演者

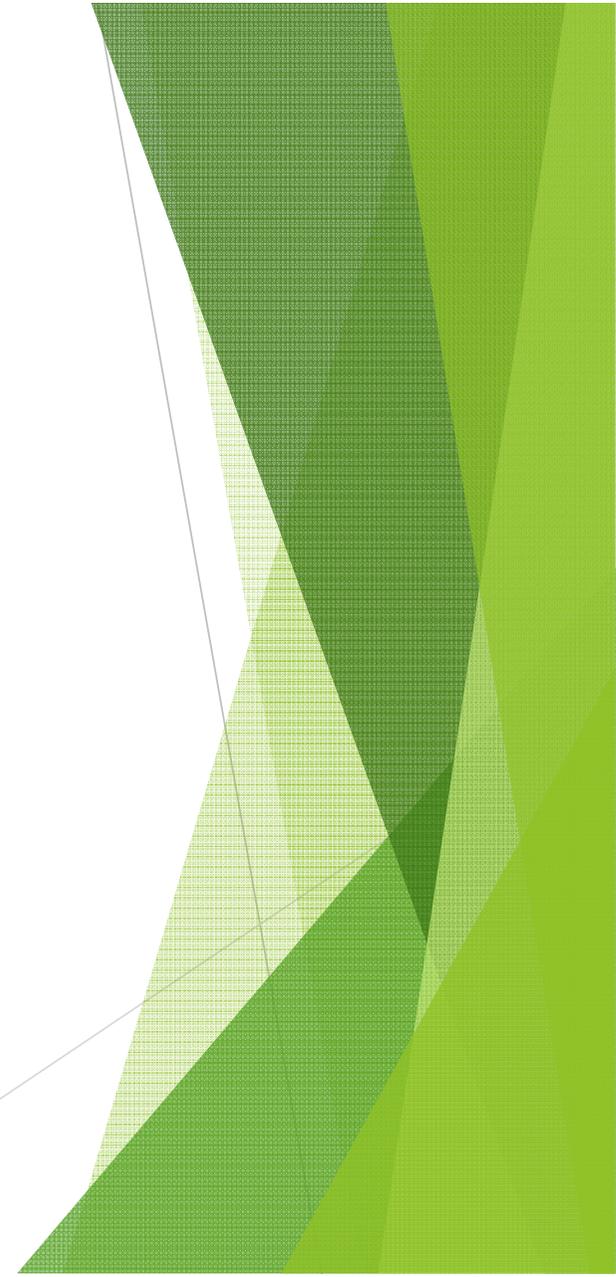
~~養女となり、
愛されて育った~~

- u 1972年8月、17歳の少女が無残に暴行され、強姦された後、道端に放置されました。1972年当時のアメリカでは、中絶は法律で禁じられていました。中絶が違法であるにもかかわらず、この17歳の少女は、闇で中絶手術を行っている診療所を見つけます。ところが、これから子供をおろすという男性医師を前にすると、少女の気持ちは変わりました。中絶医院を出て、振り返ることなく歩き出しました。翌1973年の4月19日、少女は女の子を出産し、出産後2時間後に赤ちゃんを病院に残して立ち去ります。そのとき置き去りにされた子供が私です。~~~モニカ・ケルシー

1999年～2004年、アメリカ各州で赤ちゃん避難所法が制定された

- アメリカではどの州にも「赤ちゃん避難所」法があり、子供を望まない母親や、自分で育てられない母親は、最寄りの安全避難所へ徒歩で出向き、新生児を預けることができます。その際に何かを質問されることはありません。こうした安全避難所は、消防署や警察署、病院などに設けられています。

この赤ちゃん避難所法のもと、
2017年現在までに3,317名の新生児が
安全かつ合法的に預けられました。



アメリカにおける幼児 遺棄数

- アメリカでは、平均3日に1人の割合で、ごみ収集箱や屋外のくず入れなど、危険な場所に捨てられた赤ちゃんが発見されています。

アメリカにおける 婚前妊娠率

2012 - 2016	41.2%
2010 - 2012	43%
2003 - 2009	41%
1997 - 2002	27%
1990 - 1996	21%
1985 - 1989	15%
1989以前	12%

2014年の婚外出生数

1,609,619

2014年の総出生数： 450万人

民族別の婚外 出生率

黒人：
72%

アメリカ先住民族：
66%

ラテンアメリカ系：
53%

白人：
29%

アジア系：
17%

出典：スタティスティック・ブレイン・リサーチ・インスティテュート（オンライン/直接メール回答）

アメリカでの 妊娠中絶

- u 入手できる州レベルのデータによると、2016年にアメリカで行われた妊娠中絶は約89万3000件で、2015年の約91万4000件と比べ、減少している。
- u 2014年には、推計92万6240件の妊娠中絶が行われ、これは2011年の100万6000件と比べて、減少した。また、2008年は100万2100件、2005年が100万2000件、2002年は100万2900件、2000年が100万3100件、1996年は100万3600件で、年々減少している。1973年から2011年の末までに行われた合法的な妊娠中絶は5300万件近くに上る。
(AGI: アラン・グッドマーカー・インスティテュート)
- u 2014年、妊娠した女性の約19%が中絶した（自然流産を除く）。
- u 国連の2013年報告書によると、アメリカよりも中絶率の高い国は、世界中で9ヶ国だけだった。これら9ヶ国は、ブルガリア、キューバ、エストニア、ジョージア、カザフスタン、ルーマニア、ロシア、スウェーデン、ウクライナである。*

どんな人が中絶したのか？

2014年、中絶した女性全体の85.5%が未婚女性だった（CDC: 米疾病管理予防センター）

既婚女性では妊娠の4%、未婚女性では妊娠の27%が中絶に終わっている（CDC）

2014年、20代の女性が中絶の大部分を占めており、中絶率が最も高い（CDC）

2014年、中絶した女性全体には15歳未満の少女が0.03%含まれる。また15歳から19歳の若年層が10.4%を占めている（CDC）

2014年に報告された年齢別の中絶率（CDC）：

15歳未満	0.03%
15～19歳	10.4%
20～24歳	32.2%
25～29歳	26.7%
30～34歳	17.1%
35～39歳	9.7%
40歳以上	3.6%

どんな人が中絶したのか (続き)

未婚のまま同棲相手と生活している女性は全人口のわずか10%程度であるが、こうした女性が中絶した女性全体の25%を占めている

(NAF: 全米妊娠中絶連合)

2014年に中絶した女性全体のうち、過去に中絶したことのない女性の割合は55.1%である。過去に1~2回中絶したことのある女性の割合は、36.3%、3回以上中絶したことのある女性の割合は8.6%であった (CDC: 米疾病管理予防センター)

2014年に中絶した女性全体のうち、過去に出産したことのない女性の割合は40.4%である。過去に1~2回出産した女性の割合は、45.7%、また、3回以上出産した女性は13.8%であった (CDC)

2014年に中絶した女性全体の30%にあたる女性が、自らをプロテスタント信者であると称し、24%の女性はカトリック信者だと称した (AGI: アラン・グットマッハー・インスティテュート)

南アフリカ ケープタウン 2013年12月

- u 講演のため南アフリカのケープタウン滞在中に、市内にある教会の壁に「ベビーセーフ」という文字を見つけました。これがきっかけとなり、アメリカにベビーボックスを作ることになりました。

Safe Haven
Baby Boxes



2014年設立

2015年、はじめてのベビーボックス法がインディアナ州で可決された

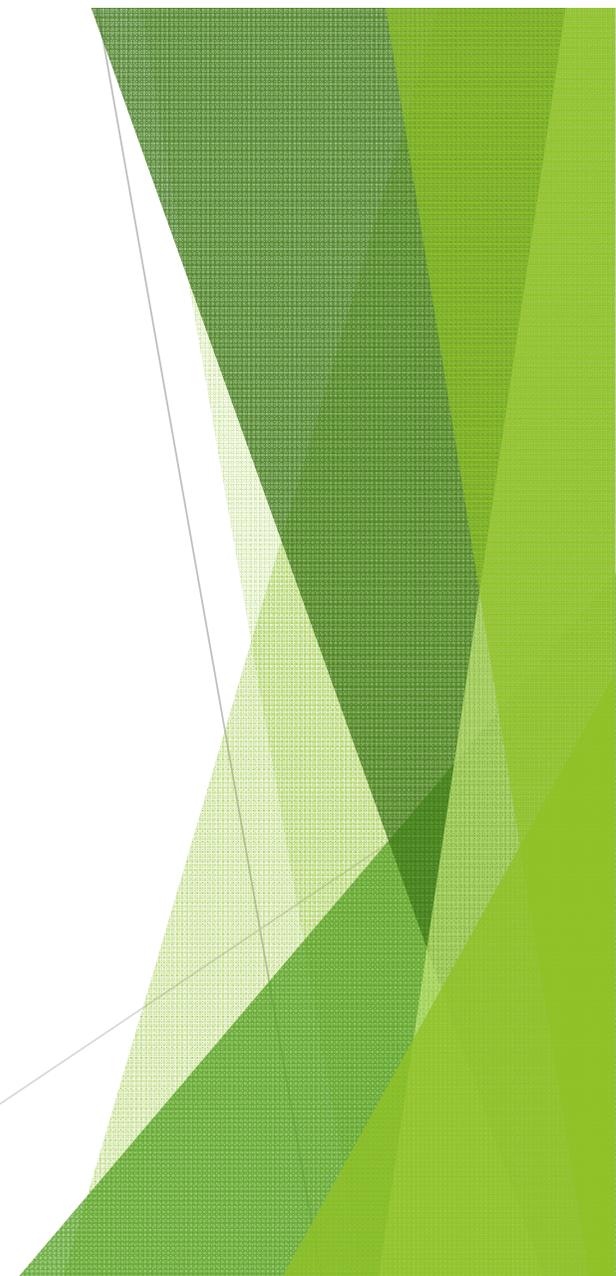
- この法律ができる以前は、アメリカでベビーボックス法が可決されたことはありませんでした。
- 「セーフヘイブン・ベビーボックス」は、アメリカでのベビーボックス設立に貢献しました。
- インディアナ州での幼児死亡率は、史上最悪を記録しており、誕生する赤ちゃん1000人のうち9.8%が亡くなっていました。
- ベビーボックスに批判的な人たちは、預けられた子供が実の親を知らないまま生きていくことになると憤慨しています。
- また、赤ちゃんがベビーボックスに預けられてしまうと、出産した母親に対面での医療処置が施せなくなると憤慨しています。

2015年12月「セーフヘイブン・ベビーボックス」は、いざというときに女性たちがすぐ助けを求められるよう、無料の電話相談窓口を開設しました。

ここでは、妊娠中または出産後に問題を抱えている女性からの電話相談に応じています。相談者を専門の緊急妊娠センターにつないだり、生まれた赤ちゃんの養子縁組や育児プランの提供、安全避難所であるベビーボックスへの委託を手助けしています。

1-866-99BABY1
「セーフヘイブン・ベビーボックス」
緊急電話相談

**2016年4月19日、最初の
ベビーボックスを設置**



インディアナ州ウッド バーンに設置された ベビーボックス第1号

現在、アメリカ合衆国にある安全避難所としてのベビーボックスは2カ所だけですが、今後、次々と設置されることになっています。

Contact Me at:

- ⌋ 最新のベビーボックス活動がご覧になります

www.SafeHavenBabyBoxes.com

- ⌋ モニカ・ケルシーのサイト

⌋ www.MonicaKelsey.com